

ICT街づくり推進会議 地域懇談会@関東 議事要旨

1. 日時

平成26年4月18日（金）15：30～16：30

2. 場所

群馬会館 1階広間

3. 出席者

(1) ICT街づくり推進会議構成員

岡座長

(2) ICT街づくり推進会議普及展開WG構成員

石塚構成員、河合構成員、桑津構成員、齋藤（義）構成員、関構成員、細川構成員、武藤構成員

(3) 群馬県前橋市における実証プロジェクト関係者

山本前橋市長、細野前橋市副市長、佐藤前橋市教育長、糸前橋市政策部参事、曾我前橋商工会議所会頭、佐藤前橋工科大学理事長、五味NPO法人首都機能バックアップ推進協議会理事長

(4) 総務省

藤川総務大臣政務官、阪本情報通信国際戦略局長、岡崎関東総合通信局長（司会）、小笠原情報通信政策課長

4. 議事

(1) 前橋市におけるICT街づくり推進事業の取組等について

(2) 意見交換

5. 議事概要

(1) 群馬県前橋市におけるICT街づくり推進事業の取り組みについて

山本前橋市長らより、資料1に基づき説明が行われた。

(2) 意見交換

主な発言は以下のとおり。

【阪本局長】

○個々の実証プロジェクトについての課題を、うまく整理していただいているので、前橋市で解決すべき課題と全国的に解決すべき課題を峻別して、国・県レベルで解決しないといけない部分は、ぜひ我々のほうも色々とし恵を出していきたい。

○今回は実証期間も短く、モニター数も少なかったが、それをどのように市全体の

取組に広げていきたいと考えているか。

【山本市長】

- 今回は残念ながら小規模であったが、これを市民全体、あるいは群馬県民、前橋市の主要の病院の利用者全体に広げていくには、やはり便利であること、少しお得であること、何よりも意識がなくても命が助かるＩＣカードだというメッセージを、具体的に伝えていくことが必要である。
- 人々が保有している複数のサービスのカードを統合することも含めて挑戦していきたい。そのための課題としては、個人情報のやりとりの問題について、もう少し国のほうでお手伝いをいただければ、我々としても大きく踏み出せるのではないか。

【河合構成員】

- この事業を、地に足がついた形で前橋市の中で定着化させていくに当たっては、費用負担についても考える必要がある。将来的に行政と受益者、間に入っている地元の企業も含めて、産官学が一体となって、うまくやっていくためのビジネスモデルを考えていかねばならない。様々なステークホルダーを巻き込んで、最初の段階から、知恵を出して整理していくことが極めて重要だと思う。
- 本事業においては、情報を共有して各地域のサービスを相互に展開していくことが極めて重要である。社会的なプロジェクトマネジメントをどう構築していくかという問題について、多様なステークホルダー、関係者がいる中で、どう調整して物事をまとめていくかという問題について、それぞれの理解を得てシステムを作ってきたというのは貴重な財産である。せっかく作ったノウハウを横へ展開できるような仕組みにすると、非常に良いのではないか。

【糸参事】

- ご指摘のとおりである。今回のプロジェクトにおいて、組織間で分かれていた情報を一つのシステムに乗せるという部分で、それぞれの組織と調整を取ることが一番大変であった。ただし、システムは１回作り込んでしまえば、数を増やすのは比較的簡単であり、今後は、組織全体に見合うオペレーションの人員を充てていくという所が、これから横展開に向けて大変なところなのではないかと考えている。
- 横展開という点では、前橋市が県庁所在地である点を活かして、他の市町村との連携を進めていきたい。

【小笠原課長】

- 行政と議会双方のリーダーシップでマイナンバーカードの利用に向けた条例改正という決意を表明いただき、大変ありがたく感銘を受けている。市長がおつ

しやった「マイナンバーカードを持っていれば命が助かる」を、非常に喜ばしい標語としてぜひ持ち帰り、関係省庁と早速調整に入りたいと思う。

- 周辺の自治体の住民が、前橋市の病院でカードをかざせば一瞬にして病院間での情報共有ができるというのは、患者、医者双方にとって便利な世界が実現する可能性が非常に開けていると思う。マイナンバー、あるいは共通 ID について、今後、医療分野に展開していくに当たり、さらに市民の利便性を向上させていく上での見通し・コメントをいただければありがたい。

【山本市長】

- 医療の地域連携や証明書等の発行を IC カード、マイナンバーによって使えるようにするには条例改正しかないので、医療機関が集中している前橋市としては、日本初になると思うが、挑戦していくべきだろうと思う。それが、命を助けることになるかと確信している。
- ステークホルダー間の合意形成に関しては、IC カードで管理することで医師や薬局の既得権益を侵す面もあるかもしれないが、結果として効率的な社会になっていくことにより、医師も、薬剤師会も、前橋市の国保も、皆の利益になるという社会構想自体をきちんと説明したいと思う。命をインセンティブとして、皆を合意形成に向かって引っ張っていける自信も能力も、我々には存在していると考えている。

【武藤構成員】

- 情報連携の標準化を進めるという観点から、ステークホルダーが多数存在する中で、実際に基盤、データベースに載せるデータの提供についての仕組みができていなければ教えていただきたい。

【糸参事】

- まさにそこが一番苦労した点である。標準が存在しない中で、今まで紙で管理されていた情報を電子化するというところが今回やった精一杯のところである。これから横連携を図っていく上で、標準化というのは非常に大事なことはないかと思っている。

【細川構成員】

- ICT まちなかキャンパスは、他の地域ではあまり見られなかった取組であり、大変興味を持った。街づくりでは、コミュニティをしっかりとさせるということが一番重要だと考えており、それを強力に発展させる切り札的な役割を、このシステムは果たしてくれるのではないかと。講師と講座を登録するだけでなく、受講者同士がその後もつながり、コミュニティをさらに発展させていく仕組みができると、地方の文化が高まる可能性を感じているが、その点で、もし何か

取組があれば教えていただきたい。

【曾我会頭】

○当然のこととして、サービスの中身作りや地域への市民としてのつながりを大事にしていきたい。実は、まちなかキャンパスに大学コンソーシアムを作りたいと考えている。前橋工科大学等、地元の大学との単位互換ができれば、学生に対しても群馬に来ていただいた意義が高まり、学生と市民とのつながりも出てくるのではないかと思う。市民講座的なものと同時に、次のステップとして、大学コンソーシアムにつなげていきたい。

【石塚構成員】

○今回のモデルは、地域資源を十分生かしたモデルとして展開されていると感じた。特に、ライフサイクルでサービスを提供していくという意味で、少子化の中で、また女性の社会参加を補うためには、ICTを使った母子健康ポータルは非常に有効だと思う。

○マイナンバーカードを普及させていく上で、住民、国民の支持を得るために、どれだけ自分たちの生活に役に立つか、利便性が高まるかという観点で、母子健康ポータルとマイページはとても有効だと思うが、両者を切り分けて作ることに、何か着眼点があればご紹介いただきたい。

【糸参事】

○両者では、サービスの性質が違うかと思う。母子健康ポータルは健康づくりに関する情報、マイページは行政と住民との間の情報のやりとりという意味で、内容として違うので分けたほうが良いのではないかと考えた。

【岡座長】

○市長の熱い思いは強く感じた。スタートしたばかりなので、モニター数が少ない等の指摘も出たが、このプロジェクトを成功させるためには、やはり持続性が必要であり、行政側と、受益者である市民の関係において、その有益性を理解していただくことが、市民の参加につながっていくのだろうと思う。アンケートの結果も活用して、市民参加を高めていくために、引き続き努力していただきたい。

○先ほども話が出でていたが、まちなかキャンパスは、一つのポイントであると思う。地域の活性化という最終目標へ向かう要素の一つとして、やはりコミュニティを作り上げていくことが必要になる。高齢者と小・中学生の交流の場を作っている市が幾つかあり、大変効果的だということ強く感じたので、小・中学生もまちなかキャンパスに参加させ、高齢者と子供の双方にとってプラスになるような形で発展させていただけると良いと思う。

○一番の大プロジェクトである医療については、豊田市のプロジェクトと、切磋琢磨していただけると良いと思う。

【藤川政務官】

○行政が、いくら便利になれと押しつけてもだめで、住民が幸せになり、利便性を実感していただけるものに、是非していただきたいと思う。

○これからの高齢化社会において、長生きをするということを喜びに変えていけるような、ICTを利用した、本当に幸せを作るものをさらに活用できればと思う。子供の命も大切であり、ゆりかごから墓場まで、全ての世代をカバーできるような提案もこれから賜りたい。

以 上